

外来担当医表

病院広報誌 秋号 No.23

		月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	内科	山田 公文	市原 金森	松本 山口	稲田 金森	市原 稲田	市原 松本
	整形外科 外科	岡庭	岡庭	岡庭	岡庭	院長	第1,3院長 第2,4,5岡庭 第4太田
	小児科	長江	長江	長江	長江	長江	長江
	検査		腹部エコー野田 胃カメラ山田		胃カメラ 腹部エコー 松本	頸動脈エコー	
午後 14:00~16:00	内科	市原	山田	濱中	森田	松本	
	整形外科 外科	院長		岡庭		岡庭	
	小児科			予防接種 乳児健診	長江		
	検査	大腸ファイバー 山田・松本 頸動脈エコー	心エコー 市原	胃ろう交換 工藤・松本 頸動脈エコー		心エコー 市原	
夕方 16:00~16:30	小児科	予防接種				予防接種	
夜間 17:30~19:30	内科	市原 第1,3,5井上 第2,4小松原		市原 小坂		松本 第1,3,5高田 第2,4井上	
	整形外科 外科	院長 岡庭		柿沼		岡庭 太田	
	小児科	長江		長江		長江	

周辺地図



<職員募集> 看護師・准看護師募集中 担当 益田・菊池まで



笑顔

病院広報誌 秋号 No.23

平成23年11月発行
編集・発行/青山病院広報委員会

医療法人 青山病院

瀬戸市南山町1-53
TEL (0561) 82-1118 小児予約専用 (0561) 82-1822
内科、胃腸科、循環器科、整形外科、外科、小児科、アレルギー科
リハビリテーション科、放射線科、[血液透析センター](#)
<http://www.seto-aoyama.jp>

基本理念

- ・思いやりと対話の医療を推進します。
- ・安全で納得できる医療を目指します。
- ・病める人々の権利とプライバシーを尊重します。

最近のワクチン事情

副院長・小児科部長 長江 秀利

肺炎球菌ワクチン(PCV)、インフルエンザ菌b型(Hib)、三種混合ワクチン(DPT)の同時接種での事故があり、一時接種見合わせそして再開となった事はまだ御記憶に新しいことと思います。不安になると同時にどうしたらよいか迷われている方が多いと思いますので、一度整理させていただきます。

残念ながらどのワクチンも絶対に安全だとは言えません。ただ、社会全体で考えると、その病気にかかるとももっとも大変な病気になる子ども達が増えることは確かです。今回の3種類のワクチン同時接種をし、日本で亡くなられた方は7名ですが、基礎疾患のある方が3名でした。あとの4名中2名は感染症にかかっていました。

海外での死亡例の報告頻度は、小児用肺炎球菌ワクチンでは概ね対10万接種で0.01~1、ヒブワクチンでは概ね対10万接種で0.02~1でありました。諸外国の死亡報告の死因では、感染症や乳幼児突然死症候群が原因の大半を占めており、いずれもワクチンとの因果関係は明確ではありませんでした。国内で今回見られている死亡報告の頻度(両ワクチンとも対10万接種当たり0.1~0.2)及びその内容からみて、諸外国で報告されてい



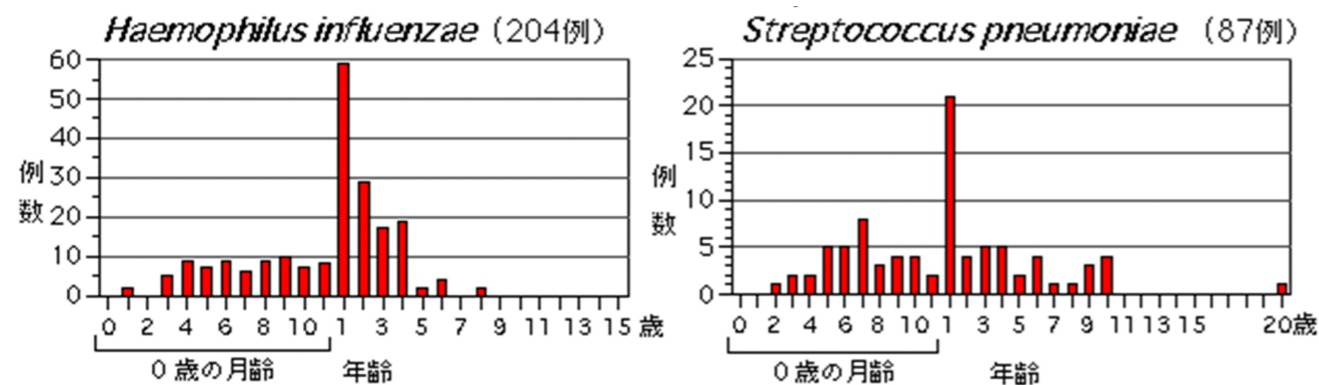
る状況と大きな違いは見られず、国内でのワクチン接種の安全性に特段の問題があるとは考えにくいと報告されています。日本小児科学会も同時接種について以下の声明を出しました。

- 1) 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンに対する有効性について、お互いのワクチンによる干渉はない。
- 2) 複数のワクチン(生ワクチンを含む)を同時に接種して、それぞれのワクチンの有害事象、副反応の頻度が上がることはない。
- 3) 同時接種において、接種できるワクチン(生ワクチンを含む)の本数に原則制限はない。ここで注目していただきたいことは、一番怖いヒブ、肺炎球菌による髄膜炎が一年で約1,000名あることです。年間出生数は100万

(2 ページに続く)

人ですから1,000人に一人が髄膜炎にかかるということです。

図 原因菌別小児細菌性髄膜炎患者の年齢 1997年7月～2000年5月



(砂川らの小児化膿性髄膜炎全国調査より、感染症学雑誌 75:931-939, 2001)

上のグラフを見ていただくとわかるように生後6カ月以降に発症することが多いため生後2カ月から、遅くとも6カ月までにはヒブ、肺炎球菌のワクチン接種を開始することが大切です。また両ワクチンは、急性中耳炎の原因の2/3を占めますので公費負担がある5歳までに接種することも有意義なことだと思います。

最近話題になっているポリオワクチンについて、来年度末に不活化ポリオワクチンが定期接種化される見込みとなっていますので、それまでの間を今までどおり接種していくのか、待ったほうがよいのか皆様悩まれていると思います。生ワクチンで一番問題なのは、ワクチン関連麻痺（1回目230万人に1人、2回目1000万人に1人）があることです。男児が女児より8倍多いのですが、生後6ヶ月以前に接種した子どもには麻痺はあまり報告されていません。一方、不活化ワクチンは米国での報告で脳炎、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）の副作用が報告されていますし、300万人に一人のアナフィラキシーショックも報告されています。そのため不活化ワクチンを接種した後、生ワクチンを2回飲むのが一番良いかもしれません。ワクチンを接種せずにいると生ワクチンを接種した子どもからうつる可能性が（440万人に1人）あります。結論的には不活化ワクチンを接種されたい方はそれでよいですが、生ワクチンを飲む場合は、お母さんからの免疫が残っている生後6カ月までのなるべく早い時期に飲むことがより安全です。そうするためには生後2カ月からヒブ、肺炎球菌を接種し、3ヶ月でヒブ、肺炎球菌、三種混合ワクチンを接種し、次に生ポリオワクチンをBCG接種の前に飲むことがベストだと思います。ポリオワクチン接種期間は春と秋だけですから必ずしも全員がこのスケジュールで接種できないかもしれませんが、スケジュールを組むお手伝いはさせていただきますので御相談下さい。

看護部長に就任しました。

看護部長 益田サヨ子

地域の皆様や病院で働くスタッフの期待に応えられるように、一生懸命やりたいと思っています。患者様に質の良い看護や介護を提供するために、スタッフの教育・指導に力をいれていきます。また病院の基本理念にもありますが、思いやりを持ち患者様と対話する事で、青山病院に来て良かったと安心して治療を受けて貰えるように頑張ります。何かありましたら気軽に看護部長室においで下さい。



私と相談室

医療福祉相談室 室長 志村奉彦

私は学生時代、母が自宅で病気の祖父を看っていたのがきっかけで福祉の分野に行こうと思いい、また大学の非常勤講師で来ていた病院の医療ソーシャルワーカーの方の授業に深く感銘を覚え、この道を目指すことになりました。

そして縁があり青山病院に就職。しかし、当時の青山病院には医療福祉相談室はなく、就職当初は療養型病棟のヘルパーとして介護の仕事に従事していました。それから1年半、病院に相談室が設置されることになり、ついに任命を受けた私は病棟内の古く使われなくなった病室に“相談室”の看板を掲げ、机とイス、電話を置き、医療ソーシャルワーカーとしての仕事をスタートさせました。

あれから10年が経過。最初は孤軍奮闘の日々でしたが、現在は場所も移転し、面談室を併設、相談員の人員も2名体制となりました。

相談室にはさまざまな問題を抱えた患者様やご家族が訪れます。なかには突如泣き出されたり、抱える問題の大きさから感情的になられる方も少なからずいます。そんな患者様やご家族との関わりのなかでさまざまな生活や価値観を知り、どの患者様やご家族も必死で生きておられる様子を目の当たりにしてきました。

そして私は、今日も患者様やご家族の思いと生活を大切にしたいと相談業務を行っています。

何かお困りの事がありましたらいつでも相談室にお立ち寄りください。

【医療福祉相談室】 専門の相談員（医療ソーシャルワーカー）が、病気によって起こるさまざまな問題に対して、患者様やご家族が安心して治療や療養に専念できるように、一緒に考え、社会福祉の立場から解決へのお手伝いをさせていただきます。